

今年は祭りを

コンセプトに、

倉敷管弦楽団が

日本の原風景・東北に

心を寄り添います。

第24回倉敷音楽祭

倉敷管弦楽団演奏会

指揮／菊池 東 津軽三味線／木乃下真市 演奏／倉敷管弦楽団

日時 2010年3/22(月・祝) PM3:00 開演
(PM2:30開場)

会場 倉敷市民会館



■主催 アルスクらしき・倉敷市・山陽新聞社

■共催 倉敷市教育委員会

■協賛 財団法人JFE21世紀財団

ごあいさつ



倉敷市長
伊東 香織

第24回倉敷音楽祭公演「倉敷管弦楽団演奏会」開催にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

本音楽祭は、国内の各地域に存在する特色のある音楽芸能を特集し、地域間の文化交流を行うことをコンセプトに開催いたしております。

昨年は沖縄をとりあげ、倉敷管弦楽団の皆様が沖縄民謡をアレンジした組曲を披露して、来場者の皆様から大変なご好評をいただきました。

大盛況の本演奏会ですが、今年は青森県・秋田県・岩手県の北東北三県の音楽芸能をとりあげています。

北東北の音楽としてまずイメージするのは、津軽三味線の激しくも繊細な旋律ではないかと思いますが、今回の演奏会では、東北を代表する津軽三味線奏者の木乃下真市氏をお迎えして、津軽三味線と管弦楽のための協奏曲を披露いたします。和と洋のハーモニーが調和した素晴らしい演奏をお楽しみ下さい。

今後とも、市民の皆様方と手を携えて倉敷音楽祭を盛り上げ、新たな「くらしき文化」による「個性と魅力あふれるまち」づくりに努めてまいりますと存じます。

最後になりましたが、倉敷管弦楽団と御来場の皆様の今後ますますの御活躍、御発展をお祈りいたしまして、あいさつとさせていただきます。

プログラム

- | | |
|-------|--|
| 伊福部 昭 | 交響譚詩
第1 譚詩 アレグロ・カプリチオーソ
第2 譚詩 アンダンテ・ラブソディコ |
| 木乃下真市 | 津軽三味線とオーケストラのための
「海流 KAIRYU」
— 休 憩 — |
| 真島 俊夫 | 三つのジャポニスム(オーケストラ版)
Ⅰ 鶴が舞う
Ⅱ 雪の川
Ⅲ 祭り |
| レスピーギ | 交響詩「ローマの祭り」
Ⅰ チェルチェンセス
Ⅱ 50年祭
Ⅲ 10月祭
Ⅳ 主顕祭 |

プロフィール

倉敷管弦楽団

「美しい音色とよいアンサンブルで質の高い演奏を」を合言葉に昭和49年に設立され、文化都市倉敷市にふさわしい若さと熱気に満ちた楽団として活躍を続け、今年で36年目になります。

年平均5回の演奏会を行っていますが、その年内1回開催する定期演奏会では、客演指揮者を招き、堤俊作氏、金洪才氏、佐渡裕氏、増井信貴氏らを招聘し、楽団のレベルアップを図っています。又いままで共演したソリストは、フルートでは世界的巨匠ジャン・ピエール・ランパル氏、ヴァイオリンではイヴリー・ギトリス氏、天満敦子氏、アナスタシア・チョボタリョワ氏、久保陽子氏、ピアノの伊藤恵氏、花房晴美氏、ウラディミール・オブチニコフ氏、ルース・スレンチェンスカ氏、松本和将氏、チェロの岩崎洗氏、山崎伸子氏、オーボエの茂木大輔氏、トランペットの津堅直弘氏、ホルンの松

崎裕氏、ギターの新田進一氏などの多彩な顔ぶれです。倉敷音楽祭へも数多く出演し、ミュージカル「11匹のネコ」、ヘンデル「メサイア」、プッチーニ「ラ・ボエーム」、團伊玖磨「夕鶴」、ビゼー「カルメン」、モーツァルト「フィガロの結婚」など、そして昨年は沖縄をテーマにユニークな演奏会を開催し好評を博しました。オーケストラを聞く機会が少ない県内の地域へも毎年出向いて演奏会を開いています。

演奏曲目はバロックから現代曲まで幅広く、團伊玖磨氏作曲「管弦楽のための高梁川」、小六禮次郎氏作曲「瀬戸内讃歌」などを初演。オペラではモーツァルト「魔笛」、J・シュトラウス「こうもり」、プッチーニ「蝶々夫人」等を演奏。

地方のアマチュアオーケストラとしては注目を集める大変ユニークな演奏活動を続けています。



津軽三味線
木乃下 真市

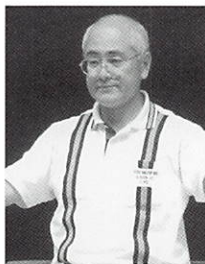
1965年 和歌山県出身。10才より父親から三味線の手ほどきを受け、17歳でNHK邦楽オーディションに津軽三味線で合格。21歳・22歳と津軽三味線全国大会で連続優勝。以来、様々なミュージシャンとジョイントを重ね国内外を問わず活躍。

伝統芸能である津軽三味線に現代音楽を取り入れて新しいジャンルの邦楽を追求する一方で正調津軽三味線のテクニクも素晴らしく、ダイナミックで繊細な演奏は感動の域を超える。

百年に一度の天才といわれる圧倒的なテク

ニクを持った津軽三味線奏者として国内外でも絶賛されている。

2004年1月にフランス・カンヌで開催された世界最大の音楽産業見本市MIDEMに参加。8月、マウントフジ・ジャズフェスティバルに参加。10月には、ドイツ・エッセンで開催されたワールドミュージックエキスポWOMEXに参加し、世界中から集まった音楽関係者から絶賛される。同年(2004年)12月、5枚目のアルバム『パッション!』(avax io)をリリース。2005年1月より全国ツアーを開始した。



指揮
菊池 東

倉敷市玉島に生まれ、5歳よりヴァイオリンを始める。広島大学工学部醸酵工学科卒業。在学中、広島大学室内合奏団の指揮者としてクラブ活動を続ける傍ら、広島市民交響楽団(現広島交響楽団)の団員としてオーケストラ活動を始める。

卒業後東京都民交響楽団に入団しサブコンサートマスターを経験し73年帰岡。

帰岡後倉敷にもオーケストラをという要望に答え74年倉敷室内管弦楽団(現倉敷管弦楽団)を設立。

以来現在まで35年にわたり同楽団の常任指揮者として、交響曲・管弦楽曲・協奏曲を中心に、バロック音楽から映画音楽・ミュージカル・オペラと幅広いレパートリーをもって各地で演奏会を開催している。

協奏曲の指揮者として共演したソリストも多く、ヴァイオリンのアナスタシア・チョボタリョワ氏、久保陽子氏、チェロの岩崎洗氏、安田謙一郎氏、ピアノの深沢亮子氏、ウラディミール・オブチニコフ氏など、またソプラノの横山恵子

氏、テノールのリヒアルト・ブリュンナー氏ほか、岡山県内で活躍する音楽家との共演は多数にのぼる。

'06年7月にはブルガリアホールにおいて、ブルガリア国立ソフィアフィルハーモニーを指揮する機会を得、「新世界より」を演奏、その模様はドキュメント番組「菊池東57歳の挑戦」として玉島テレビ・倉敷ケーブルテレビ等で放送された。

ヴァイオリン・ヴィオラ奏者としては、'90年ソロリサイタル開催。'03年久保陽子と仲間たちに出演。弘中孝・久保陽子・漆原啓子・三船文彰氏と共にブラームスのピアノ五重奏曲のヴィオラパートを好演。毎年4月には歳の中コンサートを行っている。

'99年より倉敷音楽協会会長を務め、児童音楽コンクールを開催し、倉敷を中心として児童の音楽レベルの向上に寄与している。

'06年秋には長年の文化活動が認められ、倉敷市文化章を受章している。

曲目解説

真島 俊夫

三つのジャポニズム

この曲は東京佼成 W. オーケストラの委嘱で書かれたブラスの曲です。ブラスバンドのコンクールなどで好んで演奏される曲ですが、オーケストラ版の要望が多く、作曲家自身によってオーケストラの楽譜が完成し、2010年1月11日東京フィルハーモニー交響楽団によって初演されました。以下作曲家自身の解説です。

この曲は私が日本的だと感じるものを、あくまで西洋的な楽器編成、音階、ハーモニー等の語法により、三曲から成る組曲にした。タイトルの『三つのジャポニズム』は「三つの日本的なもの」という意味である。

- I 「鶴が舞う」は丹頂ツルの求愛の踊りである。丹頂ツルは頭頂部の赤と一部の黒い羽が全体の白い羽とのコントラストを見せて美しい。そして雄がコーと一声鳴くと、雌がコーコーと答える。
途中、鶴の羽ばたきと鳴き声の描写が入る。
- II 「雪の川」は冬の峡谷を静かに流れる川に、雪がしんと降り続ける墨絵のような光景を描写した。
- III 「祭り」は激しい日本の夏祭りを描写で、いろいろな祭りのリズムが目まぐるしく登場する音のコーラージュになっている。中間部は夏の炎天下、青空に入道雲が出ている日本の夏の光景だ。やがて遠くから聞こえてくる太鼓は、私が子供の時から親しんだ母の生まれ故郷、青森の「ねぶた」のリズムである。

レスピーギ

交響詩「ローマの祭り」

「ローマ」三部作の最後を飾る作品で、ローマを舞台に繰り上げられる四つの歴史上有名な祭りをとりあげ、その祭りの種々相をとおして人間を描いているのが特色です。曲は切れ目なしにつづく四つの部分からできていますが大編成の難しい曲なので減多に演奏できない曲です。

- I 「チュルチェンセス」ローマの大円形劇場に民衆を集めて行なわれていた古代ローマ帝国時代の祭りを描いたもので、暴君ネロがここでキリスト教徒と猛獣を闘わせるような残忍きわまるショーを行なった様子を色彩感ゆたかなオーケストレーションで鮮やかに描出してゆく。
- II 「50年祭」50年ごとにキリスト教で行われる大祭りでローマを訪れる巡礼のありさまが描かれている。
- III 「10月祭」ぶどうのつるにおおわれたカステッリの10月祭。こだまする狩のひびき、鳴りひびく鐘の音、そして愛の歌。やがて静かな夜のとばりのなかでロマンティックなセレナードが流れてくる。
- 4 「主顕祭」主顕祭とは救世主の降誕を祝う祭りのことで、音楽は主顕祭前夜のローマのナヴィオ広場のにぎやかな模様を舞曲サルタレロを中心に描いている。

曲目解説

伊福部 昭

交響譚詩

1914(大正3)年 北海道釧路に生まれた伊福部昭は映画音楽を300本以上担当し、中でも「ゴジラ」を初めとする特撮映画の音楽で広く知られています。

彼はほぼ独学でヴァイオリン・作曲を習得し、北海道帝国大学農学部林学実科に入学。大学オーケストラでコンサートマスターをしながら、もっぱらレコードによって20世紀音楽を次々に吸収していきました。

1943年ビクター主催による管弦楽曲の懸賞に応募、今日演奏する交響譚詩が見事1等となりレコード化され、再演の機会が豊富な彼の代表作となっています。

「譚詩」というのは、現在ではあまり耳慣れない言葉ですが、かつては「バラード」の訳語としてによく使用されていました。伊福部によればバラードとは「踊りと詩が分離しない状態」だということです。

伊福部の音楽の特徴は「ゴジラ」でもわかるようにリズムの重視とシンプルなモチーフの反復と展開・民族的施法の使用などがあげられ日本人にとって分かり易い音楽です。

曲は2つの譚詩からなり、2曲目の第2主題は都節音階でねぶたの笛によく似た旋律が出てきます。

木乃下真市

津軽三味線とオーケストラのための海流

津軽三味線は津軽地方で誕生した三味線。本来は津軽地方の民謡伴奏に用いられるが現代においては特に独奏を指して「津軽三味線」と呼ぶ場合が多い。撥を叩きつけるように弾く打楽器の奏法とテンポが速く音数が多い楽曲に特徴がある。

若手津軽三味線の第一人者として活躍している木乃下真市さんが作曲したこの曲は津軽三味線と打楽器が激しくからみ合い2管編成のオーケストラと協演する、躍動感あふれる曲です。本日は木乃下さんがアンサンブル金沢と共演した時の打楽器のバージョンで演奏します。



倉敷音楽祭出演者

(倉敷管弦楽団)

- | | | | |
|--|--|---|--|
| ○指揮
菊池 東 | 大塚 浩二
小村 知子
武本 克己
日笠 京子
八木原周平
・大道 真弓
・山下 徳美 | 瀬尾 祥治
吉田 容子 | ○トロンボーン
松尾 浩寿
松田英一郎
曾布川拓也 |
| ○コンサートマスター
佐藤真理子 | | ○クラリネット
小笠原泰志
・坪内 一晃
・中岡めぐみ
・森永 真弓 | ○チューバ
・浅野 尚行 |
| ○第1ヴァイオリン
佐藤真理子
阿曾沼和代
相澤 恵理
岡崎千瑞子
金川 理恵
小林 佐知
杉山 晃一
藤田 真理
松尾 愛子
丸山 博樹
森安 鏡子
柳井 典子
・河野 園子
・中野 丁 | ○チェロ
栗木由美子
石川 恵子
大西 智幸
黒田 正典
佐伯枝里子
田中 光子
田辺 幹夫
辻田 順子
平松 真弓
松本 圭子 | ○ファゴット
西 恵美
・天本 裕子 | ○打楽器
高尾 暢子
・今井 忍
・今岡奈津子
・奥田 浩基
・門野 恵理
・河田江理奈
・福田 晴香
・宮内 奈美
・村岡 佑馬
・吉見 奈々 |
| ○第2ヴァイオリン
下山 泉
大村 奈美
上原 保美
清久 彩
中塚えりか
平松 綾
三宅 郁子
村上 節美
・滝沢 陽子 | ○コントラバス
本屋敷勝信
田中よしこ
平松 博之
・岡崎謙一郎
・川田 慎浩
・仲原 利江
・原田 一平 | ○コントラファゴット
・山本 裕子 | ○サクソフォン
・井上 有紀 |
| ○ヴィオラ
松江 靖子
岩瀬 裕子 | ○フルート
坂井 昌子
小池かほる
月本 裕子 | ○ホルン
吉市 幹雄
加藤 友美
相澤 弘明
大島 賢治
加藤 充美
澤田 秀実
中藤 都 | ○ハーブ
竹村 知子 |
| | ○オーボエ
武繩 生子 | ○トランペット
原田 宗範
山本 友恒
松尾 健一
・安座間尚太
・安部志穂里
・増本 辰馬
・吉田 章 | ○ピアノ
竹村 知子
・畠山 勝子 |
| | | | ○オルガン
・石田 好美 |
| | | | ○マンドリン
・伊丹 典子
・客演 |

倉敷管弦楽団第36回定期演奏会

日時 2010年6月27日 2:30PM
 場所 倉敷市市民会館
 指揮 角田鋼亮 独奏 松本和将
 曲目 ワーグナー さまよえるオランダ人 序曲
 ラフマニノフ ピアノ協奏曲 第2番
 ブラームス 交響曲 第1番

倉敷管弦楽団団員募集

定例練習日 毎週月曜日 午後7:00~9:30
 練習場所 倉敷市文化交流会館
 団員資格 オーケストラ経験者で、練習・演奏会に参加できる人
 募集パート 全パート(管楽器は一部)
 お問い合わせは 田辺幹夫/TEL.086-263-3521
 菊池 東/TEL.086-522-5145
<http://kurakan.org/kurakan-blog/>